

ホームページのご案内

コーポレートサイト



<https://www.kitoku-shinryo.co.jp/>

より多くの方々に当社をご理解いただけるよう、おすすめ情報やIR情報の充実を図っております。また、各種SNSやオンラインショップも展開しておりますので、ぜひ一度ご覧ください。

オンラインショップKOMETS



オンラインショップKOMETSでは、幅広い種類のお米やお米に関連する商品を取り揃えています。期間限定のお得なキャンペーンも実施しておりますので、是非一度ご覧ください。

<https://komets.jp/>

「米粉パン」を販売開始

5種類の味が楽しめる米粉パンの詰め合わせセットが登場！

自社製造の米粉で作ったグルテンフリーの米粉パンをKOMETSで販売開始しました。米粉特有のモチっとした食感で、女性やお子様に大人気の商品です。お米の風味を楽しめるプレーン味の他、いちじくやオレンジピールを練り込んだ商品も入ったお得な詰め合わせセットとなります。この機会に是非お試しください！



日本の特産品 (表紙から)



大分県にはあまり米どころのイメージはないかもしれませんが、実は、豊富な水量とコメ作りに適した気候、良質な土壌がそろった良食味米の産地です。今回はそんな大分県の名所・名産品をご紹介します！

1 別府温泉

全国一位の湧出量を誇る温泉地で、古くから親しまれた主な温泉郷が8つあり、別府八湯と呼ばれています。100度近い源泉を間近で見学できる「べっぶ地獄めぐり」も有名な観光スポットです。

3 大分かぼす

大分県でのかぼすの栽培は江戸時代にさかのぼり、今や日本では生産量の90%以上を占めます。甘みが強く酸味がまろやかな果汁は、さまざまな料理を引き立てます。

5 だんご汁

今でこそ米作りも盛んな大分県ですが、昔は米作りに適さない土地も多く、麦などの穀物栽培が盛んでした。こうした背景から、小麦粉をこねて薄く引き伸ばしただんごを具材としただんご汁が誕生しました。

2 大分県産ヒノヒカリ

大分県で生産量をもっとも多い品種です。コシヒカリと黄金晴の交配によって生まれたヒノヒカリは、やや小粒ではあるものの、つやと厚みがあり、リーズナブルな常用品米として人気です。

4 とり天

大分県では鶏めしや鶏汁など、さまざまな鶏肉料理が広く親しまれていますが、中でもとり天は定番料理の一つです。1926年に別府市に開業した「レストラン東洋軒」が発祥とされています。

木徳神糧株式会社

第75期 2022年1月1日▶2022年6月30日

中間株主通信



とり天



だんご汁



大分かぼす



大分県産ヒノヒカリ



日本の特産品 大分県編

詳細は裏表紙へ！



〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-8 木徳神糧小川町ビル
TEL : 03-3233-5121(代表)
FAX : 03-3233-5131



環境負荷の少ない植物油インキを使用しています。

別府温泉

木徳神糧ってどんな会社？

経営理念

コメビジネスを軸に世界中の消費者にコメとコメ関連食品の素晴らしさを発信し、健康で楽しいライフスタイルの実現をサポートします。

中期経営計画 (2020年12月期～2022年12月期)

2020年12月期～2022年12月期の3カ年は「**持続的成長を実現するための構造改革期間**」

当社を取り巻く経営環境

- 人口減少・少子高齢化
→食品購入量の減少
- 食の多様化
→コメ食の減少
- 消費税増税・将来への不安
→節約志向
- 働き方改革対応
→物流コスト・人件費増加
- 消費行動の変化
→ニーズ把握と対応の高度化

逆境を
勝ち抜くための
経営戦略

- 米穀事業(国内)の
構造改革**
- 仕入構造改革の推進
 - コスト削減による競争力強化
 - 提案営業実践の強化
- 新規事業・
新商品開発の本格化**
- 海外市場におけるチャレンジ
 - 連携強化による開発の充実

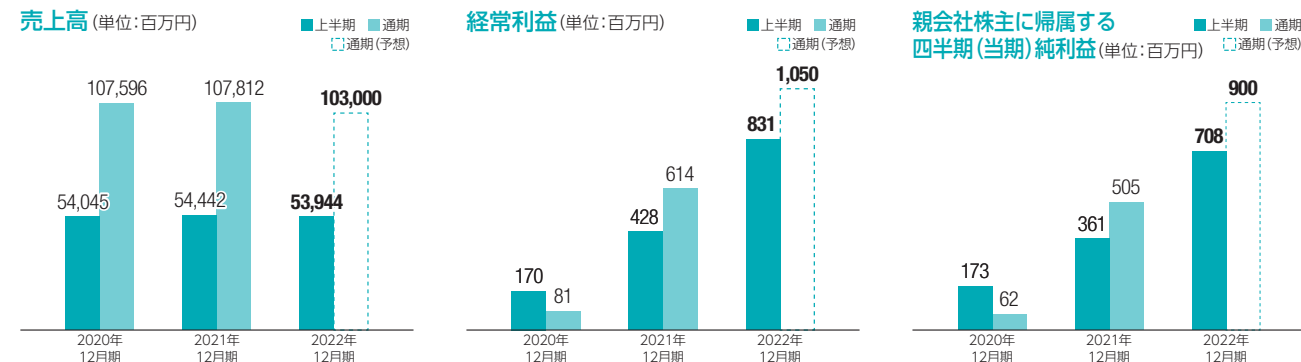
当上半期の取り組み

社会貢献への取り組み

当社は2022年5月、ロシアによる侵攻でウクライナからの避難を余儀なくされた方々への支援を目的に、隣国ポーランドの取引先であるKOKORO SMAKI JAPONII (以下 KOKORO社)を通して、ポーランドの人道支援団体Mother's Homeに寄付いたしました。KOKORO社はポーランド市場ヘジャポニカ米を広めた企業であり、現在ウクライナ難民への支援活動を行っております。今回の寄付金は、幼い子供を持つ女性や妊婦が避難するワルシャワにある施設で医薬品や生活物資の購入、設備の改修等に充てられ、現地から感謝のメッセージを頂きました。一日も早くウクライナと周辺諸国の方々に、平穏な日常が戻ることを願っております。



連結財務ハイライト

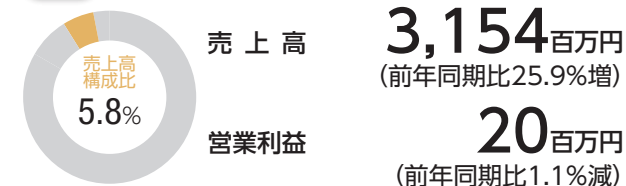


米穀事業



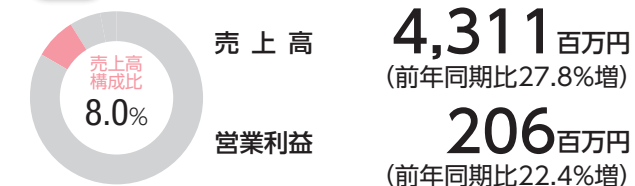
- 令和2・3年産米の豊作により販売単価の下落が続くなか、量販店向けの販売が低調に推移し減収
- 米穀在庫の適正化および仕入体制の構築・仕入ルートの複線化、原料調達と提案営業を優位に進められたことなどにより大幅増益

鶏卵事業



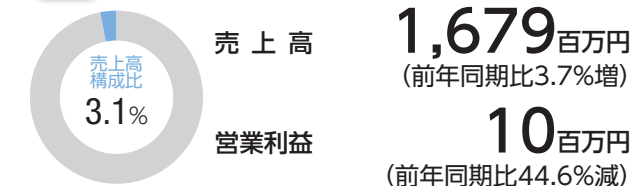
- 量販店における家庭用ブランド卵および鶏肉加工品の販売強化に努め増収
- 物流費用をはじめとするコストの上昇が収益を圧迫し微減益

飼料事業



- ロシアのウクライナ侵攻に伴う穀物相場の高騰の影響により、飼料の販売単価が全体的に上昇し増収
- 国産飼料の需要が高まるなか、国内における仕入先拡大によって既存・新規取引先への拡販ができたことに加え、販売コストの上昇を抑えたことにより増益

食品事業



- 加工用原料米の販売が好調に推移し増収
- 米粉原料に使用する外国産米の価格の高騰、競合他社との価格競争激化および和菓子向け米粉販売の採算悪化により大幅減益



米穀卸としての使命感をもって 事業の構造改革に取り組みます。



代表取締役
社長執行役員COO 竹内 伸夫

Q 2022年12月期上半期の業績について
お聞かせください。

A 厳しい環境下において、仕入れルートの
複線化により利益を確保しました。

当社グループが属する食品流通業界では、エネルギーや食品の価格上昇による先行きへの不安から消費者の節約志向は根強く、依然として厳しい状況が続いています。また、当社グループの主力である米穀事業においては、豊作による供給過剰によって米穀取引価格の下落傾向が続くなか、コンビニエンスストアを中心に中食向けの販売は堅調であり、外食需要も回復傾向でしたが、量販店における家庭用向けの販売数量が低調に推移したこと等により、売上高は53,944百万円(前年同期比

0.9%減)と僅かに減収となりました。一方で損益面では、米穀在庫の適正化および仕入れルートの複線化を推進したことで、原料調達や提案営業を優位に進めることができ、その結果として営業利益は810百万円(前年同期比119.0%増)、経常利益は831百万円(前年同期比94.3%増)と大幅な増益となりました。

業界全体でコロナ禍の影響が長引くなか、当社グループにおいては大手のコンビニエンスストアや量販店、外食企業等の優良な顧客基盤が強みとなり、比較的早期に業績を回復しつつあります。お客さまからのさまざまなご要望にお応えするため、生産地から自社精米工場、運送時まで品質管理を徹底していることが、長年の信頼とお取引につながっていると自負しています。

Q 国内米穀事業の構造改革について
進捗をお聞かせください。

A 生産者と消費者双方に価値を提供する
米穀卸を目指して改革を進めています。

私は、岡山県の備前食糧株式会社(現在の木徳神糧中四国支店)に入社してからずっと米穀事業に携わってきましたが、現在、米穀業界は大きな変化の中にあります。国内では、国民一人あたりの年間米消費量が1962年の118kgをピークに現在50kg台へと減少し、お米の生産量もどんどん下がっています。昨今、世界の情勢が不安定な事で食料安全保障の面からお米が改めて注目されていますが、国内の生産者は農業資材の高騰や担い手不足で悲鳴を上げています。こうした環境の中で、当社グループは今こそ業界のリーディングカンパニーとしての責任を果たし、存在意義を発揮する時であると考えています。

国内米穀事業では仕入、生産、営業の3部門の構造改革によってコストダウンと収益構造の再構築を進めていますが、特に重要なのが仕入れルートの複線化です。当社グループは大きな取引先様が多いことから、大量のコメ

を安定的に供給するために米穀の大半を全農系統から調達しています。また、東北の純情米いわて、九州のJA食糧さが等の資本提携を結んだJAをはじめ、各単協や各地の生産法人等、仕入先を拡大するとともに、効率的な生産と輸送を目的として産地精米を進めています。そして、「つきあかり」や「にじのきらめき」といった高温耐性や良食味という特徴を併せ持つ多収穫米の普及に取り組むほか、各産地の新ブランドの普及等、生産者と消費者をつなぎ、双方にとって価値のある米穀卸を目指します。

一方で、自社精米工場の生産性向上に向けた改革も推進しています。旗艦工場である埼玉県の桶川工場を中心に、自動開袋機や色彩選別機等、設備の更新による自動化・省力化や、製造アイテムの工場ごとの集約等を進め、当社グループのビジネスの要として効率化に向けた改革を続けます。

さらに、米穀事業においては2022年度に執行役員を含む大幅な人事異動を行いました。営業と仕入、そして本支店をまたいだジョブローテーションによって組織を活性化し、新たな価値の創造を目指してまいります。



Q 海外事業および新規事業の現状について教えてください。

A コロナ禍の鎮静化とともに、積極的な活動を再開しています。

海外事業については、コロナによる行動制限が解除された国・地域からの引き合いが増え、営業活動が活発化してきたことを感じています。世界有数の食料輸入国である中国を引き続き戦略市場と位置付け、連結子会社である木徳(大連)貿易有限公司を通じて中国最大の食品会社である中糧集団と協力し、販売地域を東北から沿海地区、中部地区へと着実に広げてまいります。

一方で、新規事業についてはスピードを上げて取り組む必要があると考えています。自社のリソースだけでの新たな商品開発やビジネスの創出は非常に難しいと認識していますので、同業他社、異業種、産学連携の取り組みを推進していきます。協業によるシナジーを活かし、広い視野でコメを使用した商品開発・販売に取り組んでまいります。

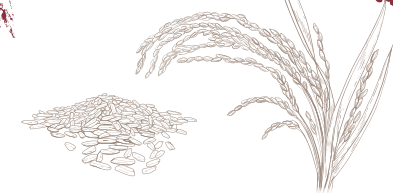
Q ステークホルダーへのメッセージをお願いします。

A 自らの“変革”によって、米穀卸としての変わらない社会的責任を遂行します。

創業以来、当社グループは日本の主食であるコメを守りながら、お客さまのため、そして社会のために何ができるかを考え続けてまいりました。今後、企業は社会の持続的な発展に向けたSDGsを視野に入れた活動が不可欠となります。当社グループは、減プラスチック素材の米袋等、環境に配慮した商品開発に取り組むほか、さまざまな形での社会貢献を考え、2022年7月には農水省の補助を受け、全国のこども食堂にNPO法人を通じて年間精米約360トン寄付することとしました。

木徳神糧グループは、食を支えるという社会的使命を果たすために構造改革とチャレンジを継続し、グループの社員やステークホルダーの皆さまが、木徳神糧と共に歩んで良かったと言っていただけの会社であり続けます。株主の皆さまにおかれましては、引き続き、末永くご支援いただけますようお願い申し上げます。

特集 木徳神糧 140年のあゆみ



1882

東京都日本橋兜町に、米穀商『木村徳兵衛商店』を開業



(創業者の木村徳兵衛)

2代目木村徳兵衛が19歳という若さで木村徳兵衛商店を開業したことが、木徳神糧の歴史の始まりです。米穀問屋として始まった事業は、創業から50周年(1932年)を迎える頃には、麦粉、雑穀、飼料、食品等、徐々に取扱品目が増え、商域も拡大していきました。

1964

木徳株式会社に商号を変更

1941年に太平洋戦争が勃発し、統制経済への移行とともに問屋業が閉鎖に追い込まれますが、第二次世界大戦終結後の1950年に再び株式会社木村徳兵衛商店を設立し、米穀問屋として再出発を果たします。さらに1964年には、古風なイメージを一新するために、創業者の苗字と名前の頭文字を取った『木徳株式会社』に社名を変えて、新たなスタートを切りました。

1981

創業100周年
～経営危機を乗り越えて～



(創業100周年記念式典の様子)

高度経済成長期を背景に、ここまで順調に経営規模の拡大を続けてきましたが、その拡大に社内での管理体制が追いつかず、1973年のオイルショックを引き金に、多額の不良債権を抱える経営危機に陥りました。この危機を乗り越えるべく、1975年より5年間に渡って『再建計画』がスタートします。この再建計画が功を奏し、無事に経営危機を乗り越え、創業100周年を迎えることとなりました。

2000

神糧物産株式会社との合併
商号を木徳神糧株式会社に変更

時代は平成になり、1991年ベトナムに最初の海外法人である

『アンジメックス・キトク株式会社』を設立し、その後の海外展開の足掛かりを築くと、商圏を海外へ広げていきます。2000年には、事業規模の更なる拡大を見据え、神奈川県横浜市に本社を置く食品問屋であった『神糧物産株式会社』と合併し、両社の社名を合わせた『木徳神糧株式会社』として新たにスタートを切り、翌2001年にはジャスダック市場に株式の上場を果たしました。



(合併記念交流会の様子)

2007

平山 惇(現代表取締役会長CEO)が社長に就任
事業の多角化に着手

株式上場の翌年から、「伝統的な米穀卸から脱却してメーカーの発想を」という方針の基に、米粉の製造や低たんぱく食品の販売等、米穀事業に次ぐ第2の柱として食品事業の育成に注力しました。2007年に平山惇が創業家以外から初の社長に就任すると、タイや中国に現地法人を設立し米穀事業の海外展開を一層加速させ、現在の各国での取引基盤を作りました。

2022

創業140周年 ～新たな経営体制をスタート～

2022年には平山惇が代表取締役会長CEOに、竹内伸夫が代表取締役社長執行役員COOに就任し、新たな経営体制をスタートしました。『事業の発展を通じて社会に貢献する』という企業価値を受け継ぎながら、既存事業の更なる発展と新規事業の推進に積極的に取り組むことで、新たな木徳神糧として更なる飛躍を目指します。



代表取締役社長執行役員COO 竹内 伸夫
代表取締役会長CEO 平山 惇

更に詳しい沿革はこちらをご覧ください。
<https://www.kitoku-shinryo.co.jp/html/company/special01.html>



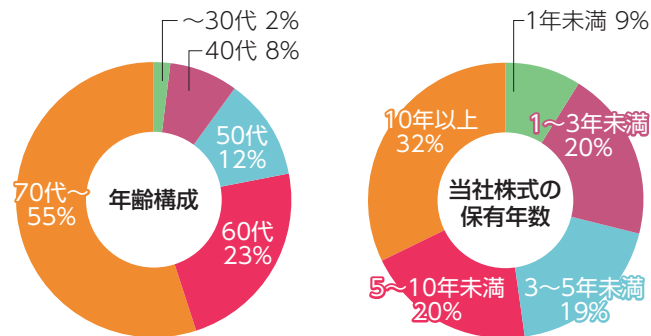
第74期株主通信アンケート結果

実施期間

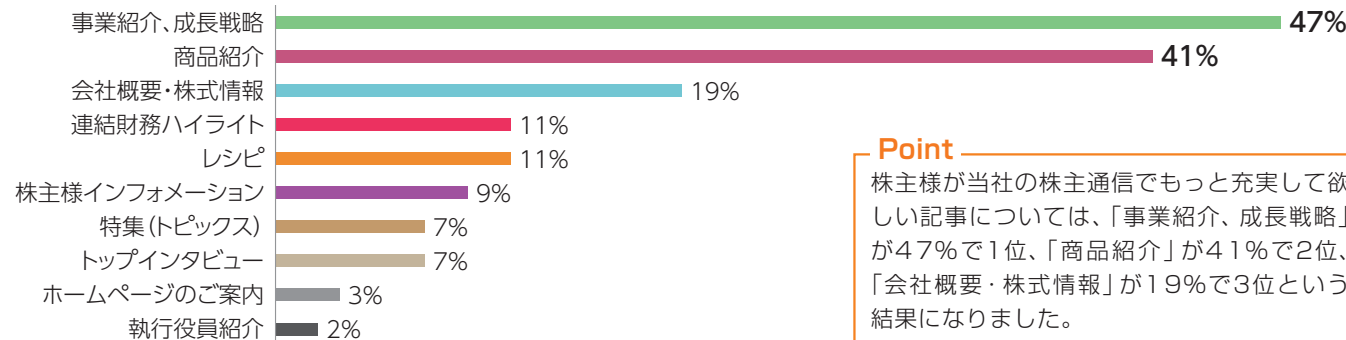
2022年3月30日から6月1日まで

ご回答数

320通 (返送率16.8%)



株主通信でもっと充実して欲しい記事をお聞かせください。(複数回答可)

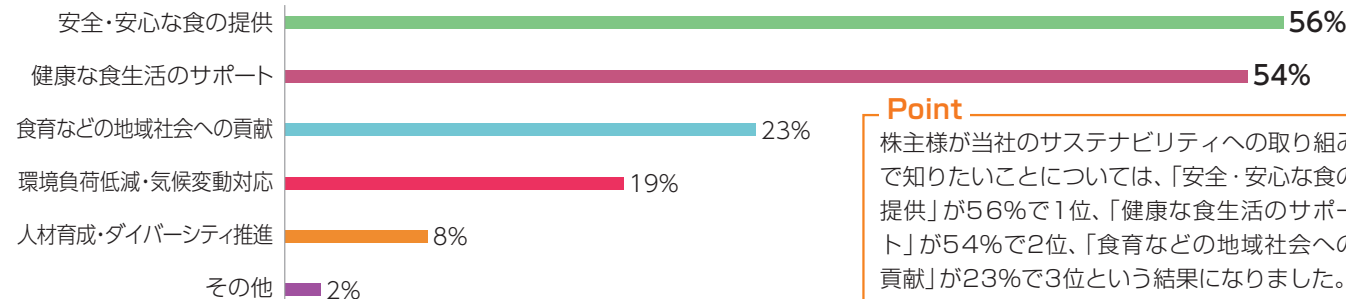


たくさんのご意見ありがとうございました。

Point

株主様が当社の株主通信でもっと充実して欲しい記事については、「事業紹介、成長戦略」が47%で1位、「商品紹介」が41%で2位、「会社概要・株式情報」が19%で3位という結果になりました。

当社のサステナビリティへの取り組みについて知りたいことは何ですか。(新規設問・複数回答可)



Point

株主様が当社のサステナビリティへの取り組みで知りたいことについては、「安全・安心な食の提供」が56%で1位、「健康な食生活のサポート」が54%で2位、「食育などの地域社会への貢献」が23%で3位という結果になりました。

株主優待

100株以上ご所有の株主の皆さまに株主優待品を贈呈いたしております。

6月末現在の株主様

200株以上400株未満

▶ 2,000円相当の米穀製品

400株以上

▶ 4,000円相当の米穀製品等※1

12月末現在の株主様

100株以上200株未満

▶ 2,000円相当の米穀製品

200株以上

▶ 3,000円相当の米穀製品等

※うち2,000円相当は「切り餅」を12月中頃までに贈呈いたします。

ポイント1

12月末現在の株主の皆さま

▶ 3月頃発送

年2回の贈呈

ポイント2

当社米穀製品をお届けします。



6月末現在の株主の皆さま

▶ 10月頃発送※

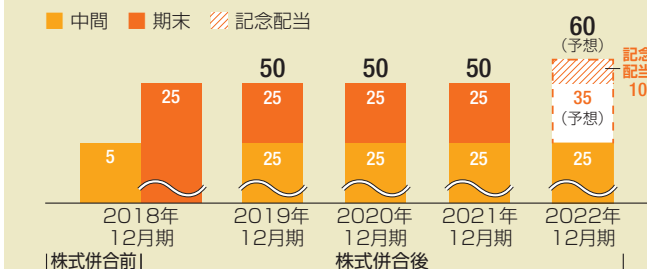
※ 優待内容や商品デザインは、変更する場合があります。

配当金

当社は株主様に対する利益還元を重視しており、安定的な配当の継続を業績に応じて維持することを基本方針としております。その実現のためには盤石な経営基盤の確保が重要であり、株主様への利益還元と同時に内部留保の一層の充実を図りつつこれに取り組んでまいります。

■ 1株当たり配当金の推移

単位：円



【株式併合前】 株式併合後

※2018年7月1日付けで株式併合(5株→1株)を実施しております。

株主様のご意見にお答えします

米を粉にしたり、多方面での多角化を希望する(お菓子・パスタ・パン等)。(東京都・40代男性・自営業)



オンラインショップについて、「お届け時間帯」の指定を可能にできないか。(滋賀県・40代男性・自営業)



先日、行きつけのお店が木徳さんのお米を使っていることが判明し、嬉しかったです。お米が美味しいので、そこのお店に行っていたので。(神奈川・50代女性・その他)



当社は新潟県の自社製粉工場で製造した米粉を和菓子やパン、お菓子等の原料として販売しています。また、本社にあるテストキッチンでは米粉などを使ったさまざまなレシピ開発に取り組んでいます。当社の米粉を使ったグルテンフリーの米粉パンをオンラインショップで販売していますので、是非お試しください。



オンラインショップをご利用いただきありがとうございます。お買い物かごから進んだ「STEP3ご注文の確認画面」で配送希望時間帯の指定ができます(配送希望日のご指定はできませんのでご注意ください)。今後ともご利用される皆さまのご要望にお応えしていきたいと考えておりますので、是非ご意見お待ちしております。



知らずに召し上がっていた美味しいお米が当社のお米だったとは、素敵な偶然ですね。嬉しい言葉を頂き、役職員一同大変励みになります。当社はこれからも安全・安心・高品質なお米を提供することで、お客さまの信頼に応えていきます。



● 会社概要

商号 木徳神糧株式会社
 事業内容 米穀事業、飼料事業、海外事業、コメ加工食品事業
 本店所在地 〒104-0061 東京都中央区銀座7-2-22
 本社所在地 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-8
 木徳神糧小川町ビル
 TEL : 03-3233-5121(代表)
 FAX : 03-3233-5131
 資本金 5億2,950万円
 従業員数 263名(臨時雇用者を除く)
 ホームページ <https://www.kitoku-shinryo.co.jp/>

● 株式情報

- (1) 発行可能株式総数 6,000,000株
- (2) 発行済株式の総数 1,706,000株
- (3) 株主総数 1,963名
- (4) 大株主

株主名	所有株式数	持株比率
木村良	108千株	6.70%
濱田精麦株式会社	82	5.08
株式会社神明ホールディングス	80	4.93
大和産業株式会社	70	4.32
全国農業協同組合連合会	60	3.70
株式会社三菱UFJ銀行	60	3.70
木徳神糧従業員持株会	38	2.40
株式会社三井住友銀行	37	2.29
農林中央金庫	37	2.29
ヤマエ久野株式会社	30	1.88

(注) 1. 所有株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 持株比率は、自己株式(85,765株)を控除して計算し、小数点第3位を切り捨てて表示しております。

● 役員 (2022年9月1日現在)

取締役
 代表取締役会長 CEO 平山 惇
 代表取締役社長執行役員 COO 竹内 伸夫
 取締役副社長執行役員 鎌田 慶彦
 取締役常務執行役員 稲垣 英樹
 取締役常務執行役員 石田 俊幸
 取締役常務執行役員 岩苔 永人
 取締役執行役員 山田 智基
 取締役執行役員 管 益成
 取締役執行役員 木村 良
 取締役(社外) 秋岡 栄子

執行役員
 上席執行役員 石森 好宏
 上席執行役員 金子 泰彦
 執行役員 郡司 和久
 執行役員 中田 基春
 執行役員 今野 稔
 執行役員 鈴木 敬夫
 執行役員 内田 英一
 執行役員 鈴木 平

監査役
 監査役(常勤) 谷本 和則
 監査役(社外) 杉野 翔子
 監査役(社外) 鈴木 昌治

株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで
 定時株主総会 毎年3月に開催いたします。
 基準日 定時株主総会については12月31日、その他必要があるときはあらかじめ公告する一定の日
 配当金受領株主確定日 12月31日および中間配当金の支払を行うときは6月30日
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 東京都府中市日鋼町1-1
 電話 0120-232-711 (通話料無料)
 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 上場証券取引所 株式会社東京証券取引所
 公告方法 電子公告(ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。)



「第19回ミニタイフェスティバル 大阪2022」へ出展

2022年6月5日(日)、タイフェスティバルが大阪(湊町リバープレイス プラザ3)で実開催されました。

タイフェスティバルは、タイの文化と伝統を広めるとともに、タイ料理を堪能していただくことを目的にタイ王国大使館の主催で開催されているイベントです。

3年ぶりの開催となる今年も、本格タイフードで有名なヤマモリ株式会社のグリーンカレーと当社の取り扱うタイ香り米NO.1ブランド「ゴールデンフェニックス」のタイ香り米の試食を提供するとともに、「タイもち米」や栄養豊富で見た目も鮮やかな「ライスベリー」などを販売し、タイ産米のさまざまな楽しみ方をご紹介いたしました。

コロナ禍においてご家庭で楽しむエスニック料理が拡大しているなか、当社は今後もさまざまなタイ料理やタイ産米の魅力の本格的かつ手軽に楽しんでいただくための活動を行ってまいります。



『お米先生』による 社内セミナーを開催

2022年2月3日、全国米穀販売事業共済協同組合の『RICE LIFEプロジェクト』のご協力の下、一般社団法人日本健康食育協会の代表理事を務める『お米先生』こと、柏原ゆきよ氏による社員向けのセミナー『お米で健康実現』で会社と社会を変える!~今日からできるお米の消費拡大施策~を開催し、当社グループの国内外の拠点から100名以上が参加しました。

糖質制限の流行等で、炭水化物が「身体に悪い」「肥満の原因」というイメージを持たれる事が多いなか、お米を中心とした食事に関する正しい知識を身に付け消費拡大に向けた活動を推進するとともに、従業員一人一人の健康支援を目的としています。

当社では、健康経営を通して、企業の持続的な成長に努めてまいります。



セミナーの様子
 感染拡大防止対策のため会場を分散し、WEBにて同時配信しました。